

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>スタッフが協力して作り上げた基本理念を毎日(朝・夕)ホームの中で入居者様、スタッフ一同で唱和している。</p>	<p>○</p> <p>基本理念と現場での実践が一致できるよう指導教育しながら個別に対応し実施して行きたい。(職場内研修活用)</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝、夕にホームの中で入居者様スタッフ一同で基本理念を唱和し、スタッフは唱和しながら1日の取り組むべきケアを考えて実践している。</p>	<p>○</p> <p>日勤者で1日の介護工程を話し合い、基本理念にのっとり密な打ち合わせが行われている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>基本理念、運営理念は入居者様個室、ホールに掲示してあり入居案内にも記載されている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議に唱和できるようにまた家族や近隣住民にお便りなどに掲載し周知活動ができる体制を整える(平成21年1月より)</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>入居者様とスタッフの散歩では、道端で合った近所の方々へ確り挨拶する習慣が出来る。ウサギ小屋には子供たちが餌をあげに来てくれる。餅つき大会では近所の方も参加し楽しんで頂いている。</p>	<p>○</p> <p>うさぎの事が気になり近所の八百屋さんや地域住民の方々が野菜を持ってきて下さる。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会行事に参加している。</p>	<p>○</p> <p>認知症高齢者に関する関わり方、グループホームの事業所としての役割の周知活動が不十分であり、このことについては平成22年度より時間をかけながら活動し多くの資源(町内会)を活用できるようにしてゆく。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ボランティア団体「かけはし」を結成し地域の高齢者(認知症)に対する理解、相談、研修活動を実施している。</p>	<p>○</p> <p>寸劇、語り、紙芝居などの企画があり職員総出で取り組んでいる最中である。(子供向け、若年者向け、高齢者向け別に)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフがユニットメンバーごとに評価し、その後管理者、役職者が参加し全員で取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、ホームの介護状況、事故苦情内容等を参加者に報告し、家族、入居者、地域包括支援センター職員と話し合いを行って現場のケアに活かしている。	○	ご家族の参加数を徐々に増やして行きたい。(平成22年度中に)
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	千歳市の福祉課職員と介護保険制度に関する情報交換を積極的に行っている。	○	継続して、入居者、ご家族、職員の介護保険制度にかかわる生の声を継続して伝えて行く。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修を通して理解を深めている(現職者研修)。さらにパンフレット等を職員に配布し理解を求めている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	現職者研修の場で役職者が講師となり虐待防止教育を行った。さらに行政主催の外部研修にも4名の職員が参加し、身体拘束廃止推進委員会で事例検討しながら防止に努めている。	○	必要に応じて事故調査委員会が設置されている。さらに身体拘束廃止推進委員会会議が2カ月に1回定期的開催されている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容を文書に沿って事例も交えながら解り易く説明し、その都度理解されたかの確認を取りながら契約を行っている。また質問疑問に対しても詳細に回答、説明させていただき理解を求めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置している。入居者様の意見苦情については、都度対応させていただいている。そのことを口頭だけで回答するのではなく、苦情受付にも反映し、対策方針もしっかり報告させていただいている。	○	入居者会議を設けている。記録に残している。・・・ほくとのつどい（健康面、不安、行事、食事、要望、希望など）
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月「ホクホクだより」というお便りの中で健康面、生活の様子、預かり金の使用領収書コピー、行政からの書類などを提出している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来訪の際、ゆっくり話せる環境の中でホーム側からの働きかけで苦情や現在の思いなどを自由に話せる環境を作っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体会議での業務改善案や個別面談、日常の会話により公私共に職員の考えを引き出し、質疑応答できるように環境保持している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	有休、休み希望については事前に要望を聞き極力応えられるようにしている。また勤務時間内でも家庭の事情を考慮し早退、一時的に職場を抜けられる環境が整っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者様には、職員の誰もが関わりを持てるように日常から馴染みの関係を構築しており、ご家族にも理解を頂いていることから、異動時の場合でも入居者様が悲しまれるような環境にはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	申し送り、諸会議、職場内研修を有効活用しており育成に取り組んでいる。また外部研修で他事業所の職員との交流の機会も多く設けていることから、自分が勤務するホームの介護力が理解できている。	○ ホームでは職員育成のために、新人研修、現任者研修、運営推進委員会、身体拘束廃止推進委員会、ユニット会議、全体会議、管理者役職者会議、親睦会会議、ボランティア会議、介護支援専門員会議、管理者会議、など育成のために大いに役立つ会議がある。その事で残業に及ぶ事がないように日勤帯で行われている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他ホーム見学、地域包括支援センター主催の同業者研修に参加し深めている。	○ 現在他グループホームの管理者と交流を深めるための段取りをしているところである。(研修を通してだけでなく職員が普段から自然に交流できる環境づくりに取り組んでいる。(平成21年12月中に環境を整えたい)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者役職者会議で環境改善の為の職員の個々の精神、身体面、残業の状況を情報収集したものを分析し職員にとってストレスになっている問題点を業務改善として取り入れ環境改善に都度取り組んでいる。その事でストレスが軽減されている。	○ 介護支援専門員、介護主任の個別聞き取りを参考にしたものが会議に反映され解決策を常に見出すようにしている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	OJTチェックリストを活用し出来ていること、出来ていないことを把握し、個別、集団ともに指導し技術向上に努めている。特に将来の目標に向かって取り組んでいる職員に対しては資格取得を進め知識向上に向けた取り組みを専門性のある職員によって実施されている。	○ 全体会議、ユニット会議を通して認知症ケアの関わり方、介護技術指導、更には資格取得希望者においては、役職者が積極的に希望者に対し受験対策講座などを開き資格取得為の支援を行っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者様の表情を観察し、1対1でしっかり本人の思いを聞き入れ(その方にあわせゆっくり)ケアに生かしている。	○ 常に関わりを持つ場合、相手の思いになって真剣に向き合って傾聴するように心がけている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談しやすい環境づくり、家族の思いを傾聴する機会を多くとっている。	○ 家族とのなじみの関係を構築するのにかなりの時間を要して実現していません。特に管理者の場合、必要に応じては自宅、携帯電話の番号も緊急に備え伝えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族、入居者ご本人としっかり会話を通して何を求めどうしてほしいのかを理解している。特に介護計画を通し家族の願い、入居者の願い、総合的な支援を文書で明確にうたっている。	○	「その時」の内容は都度変化するもので職員も都度変更、追加に対応できる姿勢で対応をさせていただいている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の情報をご本人、ご家族から情報収集させていただき、入居前にケアカンファレンスを行い身体精神面、趣味嗜好などを職員間で確認し合い、ご本人やご家族が入居の際全職員がしっかり個別に関わり徐々に環境に慣れていただきながら集団生活に入って頂く個別ケアを確立している。	○	家族にはなれないが家族以上のケアをしなければならないこと、家族の苦しい決断で入居させていることを職員全員に研修を通し理解していただきたい。(パーソンセンタードケア)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	必ずご本人にお伺いを立て共に考え共に悩み馴染みの関係を構築している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪された時は、入居者様、ご家族が共に食事をとりながら家族の日常生活の話題や入居者様の生活の様子を状況によっては職員も仲介に入り語り合っている。	○	食事中、お茶の時間には、極力ご家族に声をかけ一緒に楽しんで頂けるように飲食をさせて頂いています。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居前の入居者様とご家族の関係を理解しながら職員は共に思いを共有しながら入居者様とご家族の関係をよりよいものにできるよう協力させていただいている。	○	ご家族の現状の生活状態、思いを傾聴し、入居者様の良い事もそうでない事もご家族にご報告する習慣を職員はホームでとらせていただいている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の情報や、ご本人からの会話の中での社会資源の活用をどのようにしてきたのか、また活用したいのかを理解し、センター方式(介護計画)を活用し馴染みの場所や物の支援を行っている。	○	後悔のない(介護者も入居者も)対応を日常生活で実施されている。個別であったり、集団であったり多種多様である。

グループホームほくとの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様全員の会「ほくとの集い」でお互いの意見を出し合い生活に反映されている。	○	毎月1回から2回程度1時間くらい時間をかけ入居者様に自由に発言して頂いている。司会は職員が行っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居されたご家族に対しては、一時期交流を断ち切らない対応(自宅訪問、お便り)など積極的に行われていたが現在は出来ていない。	○	定期的に交流が出来る環境を行える環境改善を行う。(お便りなど)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の活用により本人の思い、暮らしの希望を把握している。	○	担当職員、介護支援専門員、管理者が協力し身体、精神面の変化に合わせた提供ができています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の活用によりその方に合った生活環境が提供されている。	○	入居前の生活歴を把握し生活に取り入れながら入居者個人の生活習慣を尊重しながら関わりをさせていただいている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプラン、カンファレンスを通して入居者様の生活の現状を職員は把握している。	○	日常生活の中で、日常生活動作、動作に対してどのような役割が果たせるのか、残存機能の活用方法を見出し活用し把握している。(その事が家事、炊事、などの作業に活かされている。)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	2チームのユニットを結成しユニット会議で意見を出し合っている。入居者様とも日常生活の場で話し合い本人のニーズを反映させている。家族には来訪時、入居者様の日常生活の状況を報告し家族の要望を聞き入れ、介護計画に確実に反映されている。	○	介護計画作成時、ご本人、ご家族の要望が追加された場合、修正、追加し入居者様本位の介護計画を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のモニタリングをユニットメンバー、担当者で行っている。変化に対しては介護支援専門員から担当者へすぐ対応策の相談をし、またユニット会議での議題として検討している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン内容に沿ったケース記録記載を目指してスタッフ一同取り組んでいる。その記録で情報を共有している。	○	ケース記録記載で着眼点がずれていたり、ケアプランのサービス提供からずれた記載がされている場合、介護支援専門員より指導が入り、記載者が理解できるまで説明している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望に出来る限り沿えるよう努力し外出(買い物、なじみの場所)などの支援をしている。	○	だれが担当するというのではなく、本人が希望する要望に対し、職員間で協力しながら入居者様の要望に応えられる対応が出来ている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の個別の趣味に対応しボランティアをホームに招き入れ(日本舞踊)など提供した。地域の小中学生が職場体験学習に来訪し入居者様との交流を図っている。	○	小中学校の生徒を常時受け入れる体制が整っており、入居者様もたのしみになっている。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホーム会の集いに参加し情報交換をしている。	○	地域密着の中核になるべき介護支援専門員の交流の場が少ないことから介護支援専門員が専門性をフルに発揮できる社会資源(フォーマル・インフォーマル)を提供できる環境を多く取り入れる。平成22年4月中までに
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議、キャラバンメイトを通し包括支援センターとの連携が取れている。	○	認知症高齢者を地域の人たちで支えるための認知症ケアについての勉強会のメンバー(講師)に管理者がなっており毎月地域包括支援センターに出向き打ち合わせを行っている。また入居希望の問い合わせも地域包括支援センターより常時あることからより一層協働できるシステムを構築して行きたい。運営推進会議では2カ月に1回必ず交流がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎週木曜日医療提携病院の往診を受けている。家族、ご本人希望の他科受診についてはその都度受診対応をしている。	○	3ヶ月に1回採血、尿検査、心電図検査を必ず受けている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当ホームの役員である医師と定期的に会議を開き入居者の健康状況、事故報告を密に行っている。またその対応策を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療提携病院の看護師に往診時や通院時に健康状況を説明し医療相談に乗っていただいている。	○	緊急を要する場合は主治医が24時間相談に乗ってもらい対応策の指示ももらい医療対応が来ている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携病院にスタッフが交代で訪問し馴染みの関係を継続している。スタッフが提携病院に行った際看護師に情報提供を求め相談している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時、または1年ごとにご家族からは終末期の希望をアンケート形式でとっておりスタッフ、主治医もその情報を共有できている。	○	文書で記載、さらに口頭で説明、さらに署名捺印も頂いて保管している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	スタッフの終末期に対する意識調査を終了しホーム独自の終末期ケアをマニュアル化し今後の終末期対応に備え準備を進めている。	○	人員体性や職員の精神的ケアが万全ではないことから、研修や意識調査で終了している。今後終末期ケアをどのような流れで確立するか検討事項としていく。平成22年6月頃までに管理者役職者が中心となってターミナルケア受け入れ態勢を整備し職員が受け入れ体制に参与できる環境を構築してゆきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	認知症の病気の理解と環境の変化になかなか適応できないこと。馴染みの関係がふりだしとなり大変であること。どのように日常生活や他施設で関われば良いのかについて専門性を持って説明している。	○	退居時、又は退居しようとする時、介護計画(センター方式の基本台帳、介護計画本体、ケース記録、身体チェック表)を複写させていただきご家族に退居時十分な説明をして、お渡ししている。また他施設職員(管理者、介護支援専門員等)にも事前情報として提供させていただいている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報については、プライバシー確保の徹底が入社契約時研修を通して図られ職員周知はしている。	○	利用者の個人情報に関する会話に関してTPOをわきまえるという点が出来ていないことから申し送り、状況を確認した都度指導している。(改善済み)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の機能にあった理解しやすい言葉を使用し、短いセンテンスでの話かけに心がけている。利用者の意見を幅広く取り入れられるように入居者会議を月1回は設けている(ほくとの集い)	○	職員の生活習慣や特性により入居者の真の思いを引き出す工夫が場面によっては出来ていないこともあり、現場で役職者等都度アドバイスを実施している。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望や体調を優先し支援している。	○	個別対応が担当者自信がすべて行わなければならないと言う錯覚が生まれ苦労した時期もあったが今では誰もが入居者様に対し対応できるようになっている。またホームで対応できない場合はご家族の協力も得ている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎月1回訪問理容が実施されており、ご本人の希望する髪型を職員が代行して理髪店に伝えている。さらに要望が自分で言える入居者様に関してはご自分で伝えることのできる環境にある。	○	訪問理容だけではなく、髪の毛を染めたいという希望入居者様には職員が髪染めを協力している、更に美容室に行きたい希望のある女性入居者様に関しては、職員が同行し対応させていただいている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理など一緒に行いたい雰囲気作りを考慮しながらテーブル上での調理盛り付けなど利用者の視覚で楽しめるよう配慮している。入居者個人の好きな食べ物の聞き取りで調理も実践している。	○	特定の利用者に限らず残存機能を活用し時間がかかっても入居者様が出来ることとして頂くための支援に工夫をより一層努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様の希望や、職員の誘いで随時近所のコンビニへ職員同行で散歩を兼ねながら買い物に行き自分で選んで頂き購入できる環境にある。たばこについても職員とともに安全に考慮し喫煙をされている。(分煙)	○	状況によっては買い物の際入居者自身が精算するよう職員は努めている。(状況とは精神的バランス)最近ではノンアルコールビールが販売されていることからビールをの飲まれる入居者様もおられることから職員とともにビールを飲まれる機会も増えている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを職員は理解し必要に応じた声かけ誘導を行い清潔保持に努めている。	○	排泄時間間隔を身体チェック表で把握している。さらにおむつ使用者でも日中は布パンツで対応し尿意が衰えない努力も入居者様の理解を得て対応している。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者様の意思によって好きな時間帯に入浴して頂いている。また入浴拒否の入居者様に関しては無理強いはない。(毎日入浴希望の方には毎日入浴して頂いている。)	○	入浴を楽しんで頂けるようにバスクリンを入れたり、バブルジェットの機器を利用し楽しんで頂ける工夫をしている。さらに入居者様の身体に合わせたシャワーチェアも用意させていただいている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様の希望に応じ居室またはソファで軽眠がとれる、休息がとれるように支援している。安心して熟睡できるよう努めている。	○	生活の中で日々リハビリ体操等の生活活性化を促進しておりその事でぐっすり休んで頂ける環境づくりに努めている。例外として夜間眠れない入居者様に関しては、放置することなく、また眠ることを勧めるのではなく寄り添って眠くなるまでかわりを継続している。(語らい、暖かい牛乳の提供、おにぎり、お菓子を語らいながら食べる、飲むなど。)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様全員による外出の機会、行事も多く快適な生活へとつなげている。フォーマル、インフォーマルの活用に努めている。	○	四季を楽しむ、入居者様個々の回想を実現させて頂くため日常の会話を通して思いを引き出す工夫をしながら懐かしい海、山、施設、風景へ出向く回想が現実のものになるよう、職員も、入居者様も感動を共有しながら常に楽しまれている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	すべての入居者様ではないが認知能力に合わせご自分で管理ができる入居者様に関してはご本人に預かり金の中から現金をお渡ししご本人が希望されている物品を購入して頂いている。	○	入居者様の中には預かり金の残金が気になる方もおられる事から預かり金台帳を直接お見せしたり、口頭でお伝えしたりしている。購入した物品の領収書はご家族に毎月お渡しし明瞭化されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日にはウッドデッキで体操をしたり、焼き肉をしたり、歌を歌ったり、車いすで散歩したり、個別に対応し本人の希望に沿える環境にある。	○	ただ散歩するだけではなく、季節の移り変わりや、咲いている花について語り合ったり、すれ違う地域の住民に挨拶をしたり、気候の変化を会話を通じて感じていただいたり、入居者様の目線に合わせた関わりをさせていただいている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常生活の中でコミュニケーションを通して入居者自身の思いを話せる場面作りをすることで心の内が言葉として表れ個別、または全体で海や遠方の美味しい食べ物屋さんに出かけたりする機会を多く設けている。	○	行事として実現すると言うよりは、普段の家庭と同じように「皆でどこかに行こうか。」「今日は天気がいいから皆が希望していた海に行こうか。」という堅苦しさが無い自然な流れで機会を設けている。(但し安全確保のための密な打ち合わせは必ず行われている。)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様からの希望があれば昼夜を問わず電話を利用して頂いている。(無料)またご家族からの電話の取り次ぎもさせていただいている。手紙についても希望に応じ便箋、封筒を用意させていただき投函できる支援をさせていただいている。	○	ホームヘルパー実習生や体験学習を体験した小中学生からの手紙も多く、手紙の代筆や写真送付、投函を代行もさせていただいている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人の来訪がある時はご本人を中心に自室やホールでゆっくりと語り合いが出来る環境にあり、職員もご家族等に入居者自身の近況報告もさせていただいている。	○	ご本人、ご家族、馴染みの人、職員が和気あいあいと過ごして頂ける環境にあり、食事のときに来訪されたときは、入居者様と一緒に食事をとって頂ける環境にある。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会が設置されており会議が2カ月に1回定期的に行われている。ホーム内の事故、ヒヤリ、苦情報告書をもとに身体拘束につながらないよう検討している。	○	この委員会のほかに事故調査委員会が設置されており、緊急を要する場合は緊急会議を開催できるよう配置されている。また他ホームで虐待、拘束があった事例を出し自分たちのホームでもあり得る事であり他人事ではないという考え方を常に持っている。拘束の経験はないが、しない、させないことを第一に掲げている。(周知徹底を職員に日々伝え理解を求めている。)また職員の心のケアにも十分管理者役職者が関わっている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	過去に鍵をかける弊害については事例をもとに十分な理解が職員にされている。玄関、居室など鍵をかけないケアに取り組んでいる。しかし防犯上夜間入居者様や夜勤者が外部から事故に巻き込まれることを防止する意味から夜間は施錠させていただいている。	○	職員側の都合でカギをかける事は抑制に値することを過去の事例をもとに職場内研修で周知徹底されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	全スタッフが連携を強化するため声がけをして入居者様の所在を確認したり、十分な位置での見守りで転倒や危険防止に努めている。	○	夜間居室訪室する際は所在確認以外に呼吸確認、ベットからの転倒防止に注意を払っている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物(ハサミ、針、ひげそりなど)を預かる際は入居者ご本人の了解を得てから事務所(薬品庫)に保管させていただいている。	○	誤嚥防止の為にゲームで使用するオセロ等の駒をゲーム前に数量を確認し、終了後も確認している。ハサミ、針などは職員がしっかり見守りができる環境の範囲内で入居者様に貸出し作業して頂いている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者様個々の身体、精神状況の変化は毎日の申し送り(朝・夕)で詳細に話し合われ事故防止に最善を尽くしている。救急法、防火講習にも参加し事故防止に努めている。	○	事故報告書を元に何が原因であるか、事故を起こした当事者だけのせいになりがちであるが、実は現場にいなかった職員が原因であったり、職員の介護技術の未熟さが原因であったり、予測する能力にかけていたり、職員間の連携不足、入居者様の身体精神の変化に気付かず通常の関わりをして事故が発生するなど多種多様な原因がある。これを職員間で日常的に話し合い根拠に基づき、手段と方法について解決する努力を行っている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成している。救急方についても消防署主催の研修に全職員が実地訓練を終了している。	○	緊急時マニュアルについては役職者等が中心となり質問形式で職員に答えてもらう方法をとったり、実際、現場で場面に出くわした時専門性のある職員が未熟な職員の前でやって見せて理解させやらせている。(ポイントを説明しながら)しかし実際はいざという時研修やアドバイスが活かされていない事が多く年に1回は救命講習を定期的に行いたい。(平成22年春から)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議を通して広く住民の協力を求める活動を心がけている。	○	万が一災害にあった場合、現状の周知活動だけでは不十分で、町内会の行事、ホーム主催の行事、当法人に所在するボランティア活動を通して周知活動、協力活動を盛んにしていきたい。(現在実施中)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	契約時リスクに関しては、事例をもとに通常、万が一の場合でも伴うこと、職員の一人ひとりが真剣に取り組んでも起こりうることを詳細に説明し理解を求めている。それを了承して頂いての入居となっている。	○	入居者様の精神・身体の変化をご家族に常に報告し、万が一の予測されるリスクについて報告させていただいている(書面にて)そのことについて日常のケアを通して職員に周知し予防に努めていることもご報告させていただいている。また3ヶ月に1回の介護計画説明の際にも必ず説明させていただいている。(介護支援専門員と担当職員)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送り時での情報交換と情報の共有、更には専門性ある職員によって身体の処置、精神状態不安定の場合は聴き取りなどの対応によって早期発見に結びつけている。このことで専門性ある職員が職員にも対応方法をしっかり伝え全職員が理解したことを確認している。	○	管理者は24時間体制でいつでも連絡が取れる体制にあり体調の変化に對し的確な指示、判断をしている。又緊急時の対応が連絡網によって各職員に連絡が取れ対応できる仕組みが取れている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報を基本台帳に綴り必要に応じ確認している。服薬に関しては、管理者がセットした薬を本人の前で薬を手にした職員が日付、名前を入居者様本人の前で読み確認し服用して頂いている。また服薬中服薬後口内に残っていないかの確認もしている。	○	医師、薬局から居宅療養管理指導をしっかりと受け、主治医からは、服薬の注意点、副作用についても詳しく指導を管理者は受けている。またそのことを管理者は職員、入居者様にもわかりやすく説明している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日のリハビリ体操や食事に乳製品、繊維質の食材を多く取り入れ薬に頼らない予防と対応を実施している。トイレ介助の際は職員が入居者様の腹部マッサージにより排便推進を促している。	○	一入居者に対し3日間便秘が続くようであれば座薬対応を医師指示の下で実施させていただいている。毎日の申し送り時に排便のあった入居者様の報告が毎日朝、夕行われている。さらにチェック表にも量、質についても記載されて把握できるようになっている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時、毎食後入居者様の口腔ケアを支援している。(但し自分でできる入居者様に関しては職員が見守って行っていただいている。)麻痺のある方、咀嚼、嚥下障害のある入居者など個別に口腔ケアを身体機能の障害に合わせ行っている。	○	口内炎にかかりやすい入居者様に関しては、皮膚科往診時に主治医に治療処置、指導をお願いして完治されている。又義歯が合わない、歯茎が痛むなどの症状の入居者様に関しては、歯科往診時主治医に診察、処置、義歯調整、口腔指導を受けながら口腔内の清潔保持に努めている。(居宅療養管理指導)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	糖尿病や肥満体質、下痢を引き起こしやすい入居者様別に食事水分のバランスを考えながら対応させていただいている。また画期的なチェック表により水分摂取量、食事が管理されている。しかし管理することだけに偏るのではなく入居者自身の嗜好品を取り入れながら食事、水分提供させていただいている。	○	管理栄養士の指導によって食事提供がされており、毎月メニューを分析して頂き、バランスがとれているのかの評価も頂いている。それを食事、水分提供の際活かしている。飲み物に関しては、嗜好を活かしコココーラ、ジュース、ポカリスエット、サイダー、麦茶、煎茶など多種多様の飲み物が入居者様に提供されている。(健康状態を把握しながら)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前の入居者様、職員の手指消毒が徹底されている。マニュアルがあり感染予防に努めている。	○	特に食中毒警報が行政よりFAXを通して発令された文書を直ぐ職員に周知徹底して感染予防、食中毒に注意している。また提携病院の主治医よりインフルエンザ予防のための予防接種指導、実施が全入居者、職員に行われている。また職員、入居者様ともに外出から戻った時うがい、手指の消毒を徹底している。ホームの物品では、手すり、床、トイレ、キッチン周り、シンクなどの消毒清掃に力を入れている。空気清浄加湿機設置。湿度温度徹底管理。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理用具、付近などの除菌は液体消毒、乾燥消毒が徹底されている。ごみ箱、シンク不潔部分の処理清掃がしっかりされており、口の中に入る食材に関しては、賞味期限のチェック(入居者様個室に保管されている食材も含む)加熱処理を十分に行い食中毒予防、衛生管理に努めている。</p>	○	<p>外部研修で、保健所主催の研修では職員の食中毒予防のための研修にも参加し職場内で全職員が衛生管理の意識を高めている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には畑があり、畑の前にはウサギ小屋がありその中にウサギが2匹生活しています。又扉のすぐ横には花鉢があり花がきれいに咲いており、入居者様がウサギの餌やりや、花に水をかける、畑の野菜が収穫期を迎えると自由に収穫するなど親しみやすい環境が整っている。またこれらの環境努力には入居者様の力が多いに反映されている。</p>	○	<p>残飯を肥料にする機械がホーム横に設置されており入居者様がキッチンの残飯が貯まると自らその機会に入れて下さっておりエコ努力に参加されている。</p>
<p>81 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>トイレ使用時はプライバシーが尊重されるようカーテンで仕切られている。また臭気に配慮した消臭剤や通気を良くするための窓開け、直接日光が当たらないようにホール、居室にレースカーテンが用意されている。さらに季節感を味わってもらえるように季節の花々を花瓶に差し和んで頂いている。職員の声、テレビの音にも配慮しながら適宜な音の制約もある。ゆっくりとした環境で和んで頂く為に静かな音楽を流している。</p>	○	<p>玄関にはなじみの関係にある代表者や管理者、職員の顔写真が掲示されメッセージが添えてあり、基本理念、運営理念が表示されている。又行事等で撮った写真集が本棚にあり、それを見ながらの会話が楽しめる工夫もされている。入居者様に解りやすくホールにはその日の勤務者が顔写真として掲示され、1か月の勤務表もわかりやすく掲示されている。時間、曜日が同じ目線で見れるように高さの工夫もされている。入居者様によってはなじみの職員がいつ来るか楽しみにしている方もおられる。</p>
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者様自身がウッドデッキに出られたり、ホールソファでくつろいだりでき、他入居者様や馴染みの関係にある職員でお茶お菓子を飲食しながら語らいが出来る環境にある。</p>	○	<p>とにかく頭が下がる思いで入居者様自身が他入居者様の特性を良く知っており、職員以上に相手の思いを理解され、一人にさせたり、寄り添ったりを生活の中で実践されている。</p>
<p>83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>長年使いなれた家具、衣類、思い出の品等を使用して頂き馴染みの環境を提供している。</p>	○	<p>入居者時ご家族には寂しい思いをご本人がされないよう馴染みの品を少しでも多く用意して頂くようお願いしています。また身体、認知レベルが低下し転倒などの恐れがある入居者様については、快適な生活をして頂くためにご本人、ご家族に全体会議等で話し合われた事項を報告し環境改善(物的環境改善)の許可をいただき心地よく過ごせる環境づくりに専念している。</p>
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室に温度計が設置されており、ホールでは温度、湿度の管理がされている。また24時間体制で管理されている。居室の喚起、温度調節についてはポイラー操作、窓を開けるなどの調整を行っている。湿度管理については空気清浄機や洗濯物を多く干すなどの工夫がなされている。定期的に2回から3回空気の入替えを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、脱衣場、浴室の手すりは勿論、居室内では空間を広めないように(身体的にすぐ転倒しやすい入居者の居室)家具などを利用し伝わり歩きができるように工夫されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室やトイレに場所が分かるように入居者の目線に合わせて表示させていただいている。その表示された場所に入居者の身体機能や認知能力に合わせた職員の寄り添うケア、すぐ手が届く位置での見守りが入居者の混乱防止につながっている。	○	入居前杖を使用して歩行していたから入居してからも杖を使用するのではなく、その人に合った介護用品、用具を専門的視点から歩行器に変更することをご本人やご家族に勧めたり、常に身体機能に合っていない用具、介護の関わりが身体機能に大きく影響することを職員にも理解していただき自立した生活が入居者様にして頂けるための努力が行われている。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑で、野菜、花作りを入居者職員がともに作業したり楽しんだり出来る機会を日常生活の中で設けている。ベランダでは日中くつろぐ場として利用し、真夏には強い日差しを遮る工夫をしながら外での食事、コミュニケーションの場として夏を満喫している。	○	今年は裏の空き地を利用して入居者様と一緒に山菜採りをした際山ウドや行者ニンニクなどを植え、さらに姉妹のせせらぎの家から頂いたひまわりの種を植えて大きくなったら入居者様の窓から観賞できるような植え方もした。実際大きくなって窓から十分見えるほどに成長し入居者様も喜ばれていた。ウサギを飼ったことで多くの子供たちとの交流が実現できた。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほほ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほほ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほほ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほほ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	①ほほ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほほ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほほ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・日中の行事にはほぼ全員の入居者様が参加し長距離のドライブなどを経験し楽しませている(利用者様職員共に)
- ・誕生会、各行事、季節を味わうための料理の工夫も行い、楽しく食事のできるサービス提供が十分に行われている。
- ・入居者様がお互いに認め合って生活しており笑顔が多い。
- ・職員研修(内部研修・外部研修)が充実している。
- ・接遇に関して職員が出来ていない時はすぐ管理者から厳しい注意が入る。